

預金・積金について

例年実施している夏期及び冬期の「懸賞品付き定期預金」キャンペーンについては、昨年度に引き続き、天草の特選品を賞品として採用するなど、コロナ禍における地域事業者を応援する取組みを実施致しました。加えて夏期キャンペーンにおいては、パーパス経営及びSDGs宣言にかかる取組み推進の一環として、天草管内で子ども食堂を運営している6団体に預入総額の0.05%相当額を寄附し、天草の将来を担う子供たちの健全な育成を支援するなど、地域貢献の要素も盛り込み預金増強策に努めました。

また、コロナ禍を背景とした消費マインドの低下等により流動性預金が増加したことから、期末の預金・積金残高は1,462億98百万円で前年度から20億10百万円増加(増加率1.3%)致しました。

当金庫は、今後も、地域のお客様の明るく豊かな生活や将来の資産形成をサポートするため、リスクの少ない安全確実な定期預金や定期積金等の預積金商品を中心に、サービスのご提供に努めてまいります。

また、年金振込及び予約のご指定をいただけますよう、年金倶楽部「ふれあい会」の活動についてもさらに充実させてまいります。



第47回懸賞品付き定期預金
「夏のお楽しみキャンペーン」

第48回懸賞品付き定期預金
「冬のお楽しみキャンペーン」

貸出金について

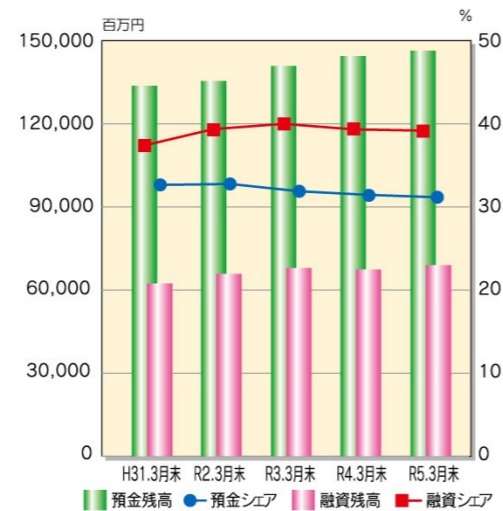
事業性資金については、引き続きコロナ禍による地域事業者の資金繰り支援やアパート・マンション等新築及び中古物件の購入資金に加え、地域基幹産業である宿泊業への設備資金等の対応により増加しております。また、個人向け貸出金についても、住宅ローンが堅調に推移したことにより増加しております。さらに地公体融資も増加したことから、貸出金の期末残高は688億99百万円となり、前年度から15億67百万円増加(増加率2.3%)致しました。

当金庫の最大の地域貢献策は、「地元で資金を必要とする会員をはじめお客様へ安定的・持続的に資金供給すること」と認識しており、地元で唯一本店を置く協同組織の地域金融機関として、ある程度のリスクも取込みながら、積極的に地域の資金需要に対応しております。また、この取組みは、当金庫の徹底した地元優先の運営を行なう資金の確保や協同組織金融機関として求められる適正利益の安定的確保という課題克服のためにも最も重要な経営活動と位置付けております。

当金庫では、今後も、地域の課題解決と持続的発展をめざして、地元で資金を必要とされる事業所・企業や個人のお客様へ積極的にご融資してまいります。

● 預金残高、融資残高と天草地域内金融機関における預金シェア、融資シェアの推移について

区分	平成31年3月末	令和2年3月末	令和3年3月末	令和4年3月末	令和5年3月末
預金残高	133,645	135,349	140,797	144,287	146,298
預金シェア	32.50%	32.61%	31.73%	31.24%	31.18%
融資残高	62,258	65,721	67,874	67,331	68,899
融資シェア	37.33%	39.21%	39.92%	39.31%	39.18%



※ 預金シェア、融資シェアについて
天草地域内金融機関＝地方銀行・第2地方銀行・信用組合・労働金庫・天草信用金庫の令和5年3月末の預金残高の合計は、469,249百万円、融資残高の合計は、175,853百万円です。

自己資本比率について

自己資本比率は**19.34%**で、健全性・安全性とも高い水準を維持しています。

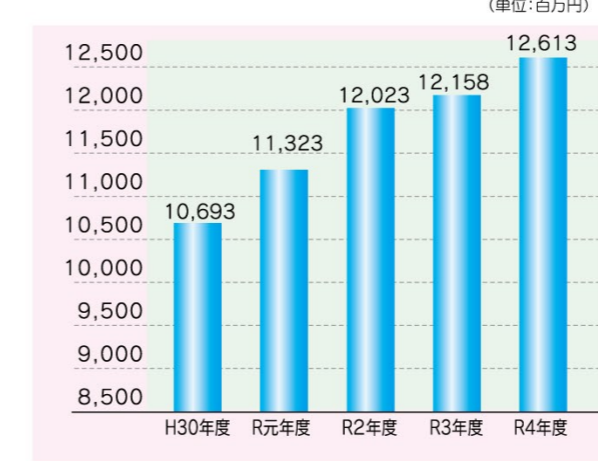
自己資本比率は、金融機関の健全性・安全性を示す基本的な指標で、信用金庫の場合は4.0%(国内基準)以上であることが求められております。

令和5年3月末の自己資本額は、前年度末から4億54百万円増加し126億13百万円となりました。

また、自己資本比率は、前年度末から1.42ポイント上昇し19.34%となりました。これは国内基準の4.8倍にあたり、健全性・安全性とも高い水準を維持しております。

当金庫の自己資本比率が高い水準を維持しているのは、每期適正利益を確保し、自己資本を高めていかなければならないとの認識のもと、地道に自己資本の積上げと経営の健全性・安全性・透明性の向上に取り組んできた結果によるものです。

◆ 自己資本額の推移



◆ 自己資本比率の推移



◆ 自己資本の充実度に関する事項

項目	令和3年度		令和4年度	
	金額	経過措置による不算入額	金額	経過措置による不算入額
コア資本に係る基礎項目 (1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	11,831,463		12,363,910	
うち、出資金及び資本剰余金の額	447,394		439,959	
うち、利益剰余金の額	11,391,637		11,931,415	
うち、外部流出予定額 (△)	7,568		7,464	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	342,468		263,876	
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	342,468		263,876	
コア資本に係る基礎項目の額 (イ)	12,173,932		12,627,786	
コア資本に係る調整項目 (2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	15,350		14,697	
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	15,350		14,697	
コア資本に係る調整項目の額 (ロ)	15,350		14,697	
自己資本				
自己資本の額 [(イ)-(ロ)] (ハ)	12,158,582		12,613,089	
リスク・アセット等 (3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	64,055,550		61,662,678	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	-		-	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	3,786,516		3,537,395	
リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)	67,842,066		65,200,074	
自己資本比率				
自己資本比率 [(ハ)/(ニ)]	17.92%		19.34%	

(注)自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫及び信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しております。

ご案内 自己資本比率規制(バーゼルⅢ(国内基準)第3の柱による開示)『自己資本の充実の状況について金融庁長官が別に定める事項』の詳細(定性的・定量的な開示事項)はWEB版資料編に記載しております。ご参照下さい。